

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500258		
法人名	医療法人信和会		
事業所名	グループホーム和楽	ユニット名	さくら棟
所在地	宮崎県小林市堤2939番地		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年12月2日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営する病院で、介護療養型医療施設などが、同一敷地にあり、協力体制が出来ている。また、認知症専門の医療機関でもあり、常に相談できる環境が整っている。町中にある為、利便性がある。地域の方々が、いつでも自由に来てもらえるよう門扉の開放・玄関を開放している。(今現在は、コロナの関係で面会制限及び、外出・外泊禁止となっており、門扉は開放しているが、玄関は施錠している。外部からの訪問に関しては、その都度対応している。)

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同敷地内に医療法人が経営する病院や介護療養型医療施設が併設し、医師や看護師との協力や相談が24時間得られる環境にあり、職員が安心して利用者の支援に専念できるよう連絡体制づくりに努めている。管理者や職員は利用者との会話や、家族と連絡をとる機会を設け、利用者の状況等を記録し、ケアに繋げるよう取り組んでいる。また、管理者は職員の意見や要望を聞き、職員が落ち着いて利用者へのケアができるよう働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入る場所に理念を設置し、日々努めている。		理念を日々のケアの中で実践できるように取り組んでいるが、管理者と職員は理念の共有や日々のケアの振り返りまでは出来ていない。	管理者と職員が話し合いの機会をつくり、理念と地域密着型サービスの理解を含め、共有し、実践につなげることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの関係で、当院の院長より、外出制限が出ている為、活動出来ていません。		前庭で過ごす時、通りすがりの地域の方々や挨拶を交わしたり、地域のコスモス祭に利用者の作品を出展するなど、利用者が地域とつながりながら暮らしを続けられるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの関係で、当院の院長より、外出制限が出ている為、活動出来ていません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を偶数月の第4水曜日に行っていたが、コロナウィルスの関係で、面会・外出・外泊禁止等の制限がかかり、会議が行えていない。各関係者には、文書での中止案内を発送している。		会議には家族の代表や近隣の有料老人ホームの代表者が出席し、報告や意見交換を行い、そこでの意見を職員会議で検討し、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難な事案発生時は、市長寿介護課に出向き、アドバイスをもらっている。		市町村担当者とは日頃から連携を取り、分からない事や困った事があると相談できる関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行ってはならない事については、全職員が理解している。玄関の自動ドアは、入居者の安全を守る為にも内側から開かないが、訴えがあれば職員と一緒に外出できる体制をとっている。		職員は身体拘束の弊害について良く理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の行動をさりげなく常に見守り声掛けの方法も職員同志で意見を出し合い、言葉での拘束が日常化しないように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わないケア技術や、虐待に関する勉強会や、職員自らが既存する制度を理解し、実践することが大切だと思います。ホーム内での不適切なケアを防ぐために、カンファレンスを開催している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人ネットワークに参加し、制度について学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、納得して頂き入居の運びとしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの関係で、面会制限がかかっている為、電話での状態報告・家族からの意見や要望を伺っている。		家族と連絡を取り、利用者の様子等を伝えて家族からの意見や要望を聞き、家族の要望により窓越しでの面会や携帯電話での写真撮影を行うなど家族等の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開催し、意見を交換を行う機会を設けている。		定期的に職員全員参加の会議を開催して、職員が意見を言える場を設け意見が言いやすい関係づくりに努め、職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度ミーティングを開催し、意見を交換を行う機会を設けている。また人事考課をもちいて年1回の昇給や年2回の賞与を反映させている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やホーム内での研修を中心に行っている。本体が病院なので、病院での研修にも参加して職員の知識向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おたまじゃくし会・県西ブロックなどで、各事業所の管理者やスタッフの意見交換会に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーが入居前に事前面談を行い、本人の意向やホームの状況を説明している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャーが入居前に事前面談を行い、家族の意向やホームの状況を説明している。出来る限り家族の意向を実現できるように努めていくようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他科受診では家族の都合が合わない時、福祉タクシーを利用して対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を過ごすなかで、一緒に家事に取り組んだり、助け合う関係も築けているが、もっと一緒に出来る事を見つけて、これからも共に笑いあえる場所にしたいと思います。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との連絡を行い状態や情報の共有を行うようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーション活動では回想法を用いて昔を思い出してもらっている。家族より昔の写真提供を依頼して対応している。	お墓参りや行きつけの理美容室の利用など家族の協力の下、行っている。家族より若い時の写真を借りて思い出を話したり、若い時の映画や音楽を見たり、聞いたりして支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時など、他入居者と会話をしやすいように、テーブルの位置を変えたり、その都度工夫し対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が在宅に退所されても、担当ケアマネジャーと連絡を密にして再入所希望された場合は対応できるようにしている。また家族からも相談可能な旨を伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、入居者一人ひとりの想いや考えを大事に受け止め、入居者の意志を大切にしている。	利用者や家族から聞いたり、表情や行動から意向をくみ取り、職員間で情報を共有し、本人本位に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お部屋に旦那様の仏壇を置いている方もいらっしゃいます。毎朝、ご飯をお供えされています。他にも、使い慣れたタンスや手拭いを使用されている方もいらっしゃいます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握には努めているが把握できていない事に気付く事もあったりする為、これからもっと入居者に向き合っていきたい。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにて個々のカンファレンスを行っている。モニタリングでも本人や家族の意見を聞いて介護に反映させている。	アセスメントや定期的なモニタリングを実施している。本人や家族からの意見を把握し、希望に添えるよう担当者会議でケアプランを決定している。状態変化時は随時の計画を変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用や月1回のミーティングにて職員との情報共有を行っている。ケアマネジャーからも個別に情報共有があり介護の質向上に効果がある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を把握することで、ホームのできる事やできない事を認識して、職員が対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員とも協力して必要な時には協力体制が整っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医を保養院にするか、現在のかかりつけ医にするかを決めてもらっている。最終判断は当法人の院長が決定する。	今までのかかりつけ医を基本とし、利用者や家族の希望されるかかりつけ医を支援している。受診は家族と職員が付き添い、職員が付き添えない場合には情報提供を行い、受診結果も共有し適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は外来看護師に報告、土日祭日には、同一敷地内にある認知症疾患センターNsに報告し、適切な指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他病院の地域連携室や地域包括支援センター等の相談員とはつながりを持ち、何かあれば連絡を行っている。コロナの関係で研修が減っているが電話にて関係性を保っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の悪い方は常に保養院看護師と連携を取って対応している。夜間についても当直医や看護師が素早く対応できる体制を取っている。	入所時に重症化した場合や終末時のあり方についてホームで出来る事と出来ない事の説明を文書で行い同意を得ている。緊急時には同敷地内にある医療機関との連携し、夜間についても医師や看護師が素早く対応できる体制づくりに努め、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルとして急変や事故については、保養院との連携を取り対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	保養院と連携して定期的に消防訓練等を行っている。	年2回関連施設合同での消防訓練を消防署が参加して行っている。利用者の避難誘導や避難経路、避難場所の確認、食料や飲料水などを備蓄するなど災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけぬよう、性格なども把握し、慎重に対応・声掛けを行っている。		接遇研修やアンケート調査を行い、職員間で言葉遣いを検討するなど、誇りやプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断ができる方には、出来るだけ自分でして頂き、困った際には助言を行っている。判断する事が難しい方に対しては、スタッフと一緒に考え、本人の望む考えに近い選択が出来る様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様を優先するように努めているが、その日の状況によっては出来ない日もあった。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で出来る方にはお願いしております。自力でする事が困難な方には、好きな色など、会話の中から引き出し、その方の好みの身だしなみになるように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事等が得意な方や好きな方には、盛り付けや皿洗いなどを協力して頂いている。その他の方達にもテーブル拭きやおぼん拭きなど、一緒に携わって頂いている。		利用者は調理の様子を見たり、一緒に準備を行い、職員と一緒に同じものを食べるなど、食事が楽しみなものなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、少ない場合は工夫をし、摂取して頂くように努めた。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ったり、声掛けを行っている。拒否がある場合などは、無理せず、その後時間を空けて別スタッフが対応している。			

宮崎県小林市 グループホーム「和楽」(さくら棟)

自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗は、入居者の心を傷つける為、各時間帯ごとに声掛けし、失敗を防ぐように努めた。		排せつは自室のトイレで行う事を基本とし、見守りを徹底し、出来るだけ自分で出来るように支援している。排せつチェックを細かく記録し、排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、水分を摂取して頂いたり、時には、一緒に散歩に出かける等の声掛けを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や入る日は決まっているが、入居者の好みの湯加減や、あらかじめ入りたい順番などを把握し行っている。		一日おきに1回は入れるようにしている。入浴を拒む場合は無理強いせずに、時間や声掛けの方法、職員を変える等の工夫を行っている。柚子風呂や入浴剤を使用する等入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースに出来るだけ合わせているが、昼夜逆転してしまう事もある為、スタッフの声掛けにて、就寝して頂くこともある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを把握しきれていない為、今後、もっと勉強して覚えていきたい。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動やテレビ体操、散歩などをして、本人が望まれることをされている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは、外に散歩へ行く声掛けを行っている。レクリエーション活動で外へドライブ(イチゴ・梨狩り)等も行ってた。今は現在はコロナの関係で外出出来ていない。		利用者の希望で、観光牧場やショッピングセンターに買い物に行くなど外出支援に努めている。また、天気の良い日には前庭の菜園で作業したり、洗濯物を干したり、取り入れたりと日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	さくら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から要求があった際は、その時に渡すようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの訴えがあった時は、自力で番号が押せる方には、押しもらっている。自力で番号が押せない方に関しては、スタッフが家族に繋ぎ話して頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものを飾ったり、入居者同士の関係を把握し、トラブルなどがないようにしている。		ゆったりとした共用空間となっており、椅子やソファを設置し、壁にはさくら棟にいるという認識ができるように大きなさくらの写真を掲示するなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置き、外を眺めたり、入居者同士で会話を楽しんでもらえるように配置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、本人様の私物や思い出の写真などを貼り、少しでもなじみのある空間にしている。		ソファやテーブル、仏壇、家族の写真等、本人の馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が案内したり、手摺りなども全体的に設置し、安全に生活ができる様にしてある。			